

第1回瑞浪市道の駅検討委員会

<議事要旨>

日時：平成30年6月27日（水）13：30～

場所：瑞浪市役所 西分庁舎1階会議室

出席委員：足立亘、石川亮子、出村嘉史、名張誠、原田守啓、水野吉衛、水野幹隆、溝口純司、
溝口博敏、森真二、鷺尾賢一郎、渡邊敏博
（五十音順、敬称略）

欠席委員：伊藤和美、鷺見正己

事務局：瑞浪市建設部 都市計画課

■会議概要

（※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示）

1. 開会

2. 委員委嘱式

3. 市長あいさつ

市長 道の駅は、瑞浪恵那道路の事業とともに地域から挙がってきた構想である。国交省の方では、単なる通過道路ではなく、経済効果を発揮できる道路とすることを課題として投げかけられている。道の駅の計画にあたり、釜戸町地内の瑞浪恵那道路と県道との交差点付近が候補に挙がり、地権者や地域住民には前向きに検討いただいている。委員の皆様には周辺地域と相乗効果を発揮でき、夢を持てるような構想の策定をお願いしたい。

4. 会長・副会長の選出

事務局 会長には原田委員、副会長には溝口博委員を推薦する。

一同 異議なし。

5. 会長あいさつ

会長 この検討委員会の責務は、数十年先の地域の将来を見越した議論を尽くすことだと認識している。委員の皆様にも忌憚のない意見をいただきたい。

6. 議事

・ 議事に先立ち、事務局より本日の配布資料の確認、資料4の説明を行った。

（1）検討スケジュールの確認

・事務局より資料5の説明を行った。

会 長 前回のスケジュールからの変更点について、具体的に説明いただきたい。

事務局 前回の準備会でのご意見をもとに、市民意見の収集に注力するため、ワークショップの回数を増やした。また、コンセプトと導入機能の検討時間を多く確保している。

会 長 スケジュールについて、不安な点や問題点があれば、意見をいただきたい。

出村委員 第1回委員会と第2回委員会の議題となっている、アンケート結果の報告とワークショップ結果の報告は何が異なるのか。

事務局 本日は速報値の報告を行い、第2回委員会ではそれに分析を加えた結果を報告する。

出村委員 第2回委員会では、コンセプト検討が中心になるようである。スケジュールを全体的に見ると、第2回委員会のウェイトが大きいが、事務局としてはどのように検討を進める予定か。

事務局 本日はアンケートやワークショップを実施した結果として、主に単純集計の結果報告を行う。次回は、それらに対してクロス集計等の分析を行った結果を報告する。これらの結果は、コンセプトや導入機能について検討を行う上での参考としていただきたい。

会 長 第2回委員会まで1ヶ月程度しかない中で、どのようなレベルのコンセプトを委員会で検討するのか、事務局の考えを聞かせていただきたい。

事務局 次回の委員会では、アンケート結果等を基に、コンセプトや導入機能について、項目出しのような形になるが、大きな方向性を示したいと考えている。それらを検討していただいたのち、第3回委員会に向けて、事務局で実現の可能性等の検証を進めていく。

出村委員 導入機能とは具体的にどういったものを指すのか。

事務局 集客施設といった、道の駅に導入すべき機能のことである。

委 員 員 これまでの経験では、このような委員会は、決定事項の案を承認する場であることが多いが、この委員会は、皆で色々な意見を出し合って議論する場と理解している。そういう意味で、次回委員会ではしっかりと考えを詰めていく必要がある。

会 長 第2回、第3回で考えが詰め切れない場合は、必要な議論が尽くされるよう委員会の回数を増やしていただきたい。

委 員 員 道の駅の具体的な整備スケジュールが分からない中で、現時点で基本構想を決めるのは妥当か。スケジュールの見通しがあれば説明いただきたい。

事務局 瑞浪恵那道路が2027年に全線開通する計画である。市の思いとしては、それまでに道の駅を整備したい。ただ、候補地は県道にも面しており、現時点でもアクセスできるので、2027年の開通を待たずとも部分的に整備することも考えている。

会 長 2~3年後に出来るようなものではないということか。

事務局 そのようなことはない。ただ、現時点で道の駅の整備が決定しているわけではなく、基本構想を経て、関係機関と協議を進める予定である。

会 長 今回の基本構想の先にはどのような展開を想定しているのか。

事務局 基本構想の策定後、基本計画において具体的な機能や規模等の詳細な検討を行い、実施計画に進む予定である。

会 長 どのような段階を踏んで計画を深めていくのか、具体的に説明いただきたい。

事務局 本委員会で検討を行うのは基本構想である。基本構想では導入機能の方向性を設定する。また、その構想が実現可能かどうかについても、検証していきたい。その後、徐々に精度を上げながら計画を具体化していく。今回の基本構想では、道の駅をどのようにしていくのかという大きな方向性を取りまとめたい。

出村委員 基本構想はこの事業の核となる部分であるため、最も重要である。そのため、将来の姿を描いて、盛り込んでおきたい内容はこの基本構想の中に入れておくべきである。道の駅の完成は数年先であるが、それを待たずとも、出来ることは色々ある。この場所をいかに自分たちのものにしていくかのイメージを、この基本構想に描かれることが理想的である。

会長 造る施設だけではなく、供用開始までの時間の過ごし方も含めて議論していかなければならない。今回策定する基本構想が、ゆくゆくは様々な展開を生むように将来を見据えた議論をする必要があり、責任を持って議論を進めていきたいと考えている。

(2) 地域活性化の拠点整備に関するアンケート結果報告（速報）

・事務局より資料6の説明を行った。

会長 興味深い結果が出たようであるが、皆様はどのように思われたか。

委員 エリア別に見ると、町の中心部に住む方の回答が多いようだ。男女比はどのようになっているのか。運営に関わっても良いという回答は30代に多いが、それを男女別で振り分けることは可能か。

事務局 男女別にクロス集計をすることも可能である。

委員 前回のアンケートとは異なり、住みやすいという意見が意外と多いようだ。

会長 地域に対して肯定的な方が、前向きに回答していただいたのかもしれない。

委員 道の駅ができることを前提にしたアンケートのようなので、結果には期待感が表れているように感じた。

会長 スーパーマーケットを求める声が多いようだが、実際にこの辺りで買い物できる場所は少ないのか。

委員 移動販売車が巡回しており、高齢者はそれを利用しているが、価格が高い。

委員 運営に関わっても良いという若い世代が多いことは夢を持てると感じた。今後、我々がやるべきこととして、計画の検討を進めるにあたり、道の駅に関心がある人に関わっていただく機会を作ることが重要である。具体的なイメージを描き出す時間は短いですが、アンケートで関わりたいと答えてくれた方にも一緒に考えてもらうための機会と時間を与えることが課題である。

会長 アンケートの実施にあたって、誰かが与えてくれるようなものではなく、自分がどのように関わっていくかという意向を聞けるようなアンケートにさせていただいた。その結果、関わりたいと考える人が多いことがわかった。今後はそういった人々にこの議論に関わっていただくための仕組みづくりが重要である。いずれにしても、道の駅に対して期待感があるということがわかった。

出村委員 クロス集計では、出資したい人と働きたい人は一致していないようである。これは会社を設

立するのに良い構造であり、出資する人と働く人が手を組めばうまくいくのではないかと。

会 長 地域の中で、出資者と労働者を募るモデルも期待できる。具体的にどのような機能があれば良いかという回答について、何か意見はないか。

委 員 道路利用者のための視点と、住民のための視点では、やはり回答が異なっている。道路利用者の視点では、集客やリピーターを確保しやすいような施設が求められている。農産物の直売所を求める回答は多いが、すでにきなあつ瑞浪がある。温泉を利用した機能であれば、リピーターとして来てくれるのではないかとという望みがあるのではないかと。

会 長 道路利用者の視点に対する回答は、おそらく道路利用者が喜ぶだろうという、回答者の想像によるところが大きいと思う。住民目線での回答の方がより切実な意見であると思われる。

委 員 防災機能について、過去の災害のときに釜戸の安全な避難場所がわからなかったという経験がある。ぜひ地域の方々が避難できるよう、安全な場所に整備していただきたい。

会 長 住みやすい地区となるための条件や、地域住民のための機能として、災害時の安全性、避難施設が挙げられていることから、地域の方の防災に対する意識が高いことがわかる。

委 員 川も山も近くにあり、既存の避難所が危ないと感じることがある。

委 員 釜戸は中央自動車道、国道、JR が狭い所に密集している特殊な地域である。住民は災害の際にどうすれば良いのだろうという意識を持っている。

委 員 釜戸町内では、候補地の場所が最も安全ではないかと思う。

会 長 候補地は、災害時の避難場所としても期待されていることがわかった。事務局としては、このアンケート結果をどのように活用していくのか。

事務局 導入機能を検討する上での参考資料として活用する。

会 長 道路利用者の潜在的なニーズを拾い上げる方法は検討しているか。

事務局 道路利用者については、周辺自治体在住者への WEB アンケートの実施を予定している。

(3) ワークショップ開催報告 (中間)

・事務局より資料7の説明を行った。

会 長 ワークショップについては、当初の計画よりかなり丁寧に実施していただいている。釜戸の町をじっくり見つめた上で、まちづくりの拠点をどのように位置づけるのかという広い視点から考えられるようにしていただいている。また、これらの開催結果については「かわら版」で市民に公表し、様々な方に関心を持っていただけるように、機運を高める仕掛けをしていただいている。実際にどのような方が参加しているのか。

委 員 あまり期待せずに参加したが、全く想像と違った。特に2回目、3回目は大変勉強になった。フィールドワークでは、釜戸に住んでいながら気付いていなかった点が会話を通じてたくさん見えてきた。また、高校生を交えたワークショップでは、我々の世代にはない発想があり、有意義な意見を聞くことができた。より幅広い年代で様々な議論を重ねることで新たな発見があるのではないかと感じた。ワークショップは運営面でも学べる点が多いので、楽しみに参加している。参加者はまちづくり協議会や、地元の人、消防団の方がいる。

委 員 私は消防団のメンバーとして参加した。参加者だけでなく、どうしたら自分の意見が計画に反映されるのかと興味を持っている方もいる。出店の募集があれば手を挙げたいと考えてい

る方もおり、知らない所で話が広がっているようだ。

会 長 積極的に関わりたいと考えている方は多いようだが、どのように関わっていただくのが良いか。

委 員 関わりたいと考えている人の中には、どのように自分の意見を伝えればいいのかと言っている人もいる。また計画に関する情報を知りたいとも言っている。

会 長 かわら版はどのエリアに配布するのか。

事務局 かわら版は釜戸町と大湫町に配布し、市のホームページ上で公表する。

会 長 かわら版により、取り組みに関する情報は広まると思うが、関心を持っていただいた方に向けて、問合せ窓口を設けるのはどうか。

委 員 問合せ先が市役所だと連絡しづらい。地元の検討委員会メンバーのような、身近な人に聞ける方が良い。

会 長 地域の方に出来るだけ参加いただくために、どのように働きかけるのが良いか。

出村委員 いきなり本設の道の駅を造るのではなく、供用開始までの10年ほどの期間で実験的に整備してはどうか。各務原の公園では、若者のグループが主催し、年に1回大きなマーケットを行っている事例があり、去年のイベントでは4万人を集めた実績がある。そのようなイベントを通じて、どれだけの集客があるのか、あるいはどういったターゲットを狙えば良いか等、実験的に取り組めば良いのではないか。

会 長 今回の計画では時間的な猶予があるので、実験的に関わられるような仕組みを作ることもアイデアのひとつである。

出村委員 この場所を段階的に整備し、イベントを行う等、実験的に取り組むことができれば、市場の掘り起こしを行った上で、道の駅としてオープンできる。

会 長 中間報告では地域の期待が高いことがわかった。一方で、数年先のことについて検討を進める上では課題も出てくると思うが、どのように進めるべきか。

出村委員 意欲のある人が集まれば、うまく行きやすい。周りに関心のある人はいないか。

委 員 自身の感覚としては60代~70代の方が熱い思いを持っていると感じる。

会 長 本日の議論を受けて、意欲のある人や出資したいという人をどのように結び付けて、議論に反映していくのが最大の課題である気がする。

委 員 アンケートはサンプル数が少ないので、地域別にクロス集計を行う必要はないのではないかと。また瑞浪恵那道路の整備にあたり、佐々良木川沿いに道路を造るべきだと改めて感じたので、そういった点について検討いただきたい。まだ具体のことは決まっていないが、個人的には水車が欲しいと思っている。昔の釜戸には、長石などの窯業原料の製造のために水車がたくさんあった。

出村委員 釜戸について調べているが、窯業は釜戸を起点として分布している。

委 員 住民の道の駅への関心が高いということがわかった。住民の要望も重要だが、行政が整備する以上は、経済波及効果も意識する必要がある。スーパーマーケットは難しいかもしれないが、防災や観光資源等、この地域だからこそというものを実現できれば良いと思う。地域の方の思いはある程度尊重しながら進めることが望ましい。

参考意見 アンケート結果から、住民の中には、温泉があるのに活用できていないといった、資源があ

るのもったいないという意識があるように感じる。

委員 佐々良木川の道路は重要な話である。候補地は、道路や川に囲まれた特異な場所にあり、地形、水辺などの、周辺環境うまく活用した施設を実現すれば、特長ある施設になると感じた。瑞浪恵那道路建設に伴う周辺道路の計画が、今より不便となるようであれば、基本構想を検討する段階で、国交省に計画を見直すよう働きかけることも可能ではないかと考える。国道を通らなければ道の駅へ行けないということは、地域の方にとってはマイナスである。地域の方のために、昔からのルートは確保しつつ、国道を通じて地域外の方に来ていただくようにするのが良い。

会長 最後に水野市長から一言いただきたい。

水野市長 色々な発言をいただき、課題も見えてきた。自身もこの計画には深く関わっていききたい。釜戸は昔からまちづくりに対して思いの強い地域であり、アンケート結果から住民の結束や絆の固さを改めて感じられた。何かやろうとなれば、参加しようという町民性は大きな魅力である。釜戸はかつて温泉街があり、活気ある時代があった。掘り起こしを行えば、可能性のある場所だと感じている。皆様に協力いただいて、より良い構想をまとめ、道の駅を現実のものにしていきたい。

事務局 本委員会の資料及び議事は市のホームページにて公表するので、ご了承いただきたい。また第2回検討委員会は7月30日(月)13時30分から行う。

一 同 承知した。

7. 閉会

以上